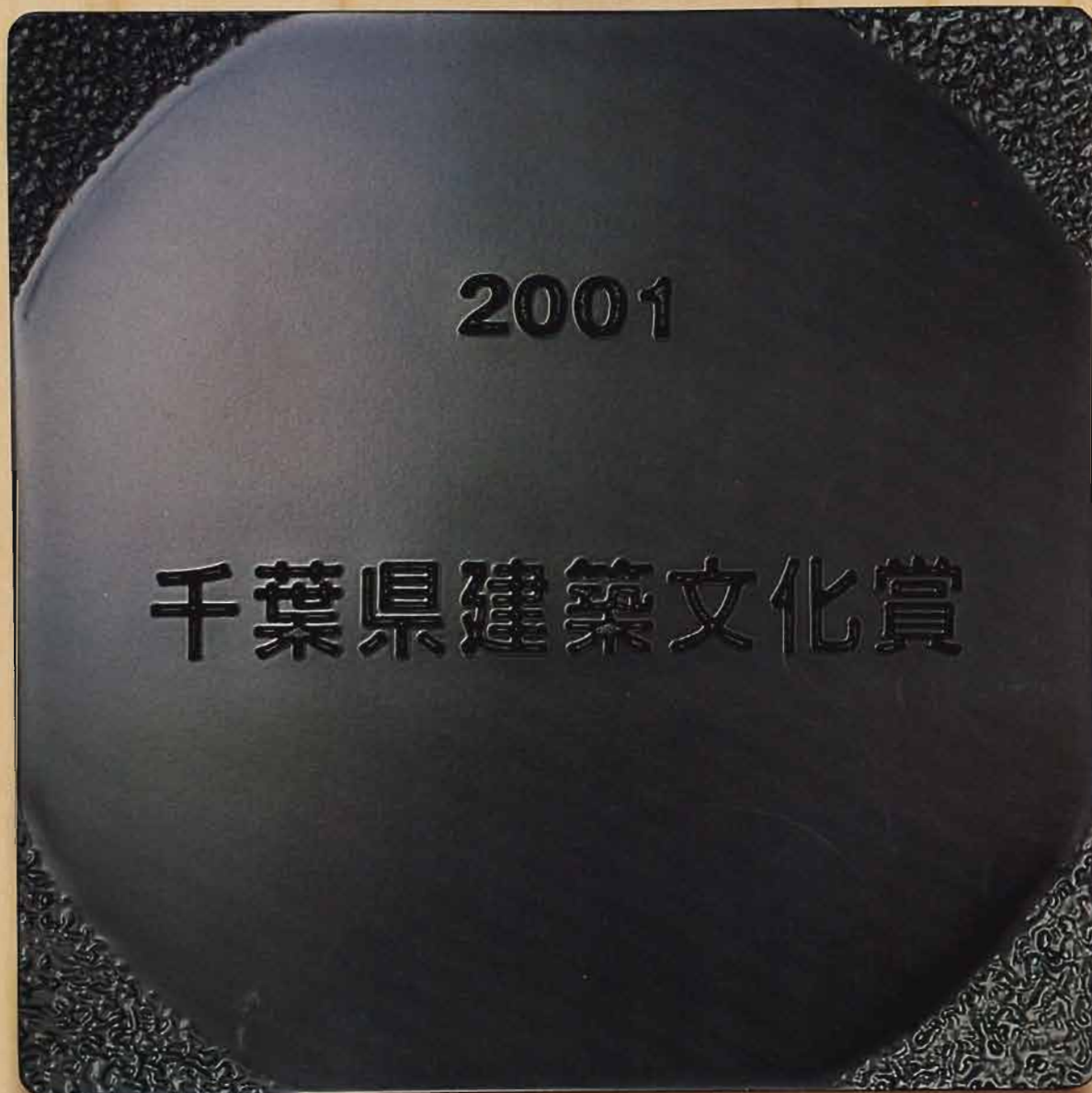


第8回
千葉県建築文化賞
表彰作品集



主催：千葉県 共催：(社)千葉県建築士会

後援：(社)千葉県建築士事務所協会 (社)千葉県建設業協会 (社)日本建築家協会・千葉
千葉県建築設計監理協会 (福)千葉県社会福祉協議会 (福)千葉県身体障害者福祉協会
協賛：千葉県住宅供給公社 (財)千葉県まちづくり公社 千葉県土地開発公社
都市基盤整備公団千葉地域支社 千葉県耐震判定協議会 (株)千葉県建築住宅センター
千葉県昇降機等検査協議会 京葉ガス(株) 千葉ガス(株) 大多喜ガス(株)

千葉県建築文化賞について



千葉県知事 堂本 暁子

平成13年度の千葉県建築文化賞に多くの皆様から御応募をいただき、誠にありがとうございました。

千葉県建築文化賞はすぐれた建築物を表彰することにより、建築文化や居住環境に対する意識を高め、うるおいとやすらぎに満ちた快適な街づくりを推進することを目的に平成6年度に創設いたしました。

第8回目となる今年度は88点に及ぶ多彩な作品が寄せられましたが、選考委員会の厳正な選考に基づき、建築文化賞6点及び建築文化奨励賞2点を決定いたしました。

受賞作品は、魅力的な周囲の景観と融合し、地域との関係も重視した小学校校舎、障害者や高齢者が安心して心豊かな生活ができるよう工夫された社会福祉施設、省エネルギー・省資源のシステムを採用し、長寿命を意識した住宅や事務所など、いずれも2001年の千葉県建築文化賞にふさわしい質の高い先導的な建築物です。

関係者の情熱と新しい発想が込められたこれらの建築物が、地域社会の中で親しまれ、より良い街づくりの推進と今後の建築文化の発展に貢献することを期待しております。

21世紀は、地方が主体性を発揮し、県民一人ひとりが地域づくりの主役となる時代です。県としても、主体的な県政運営を行い、県民が誇りと自信を持ち、経済的にも文化的にも自立した「千葉主権」の確立を目指していきたくて考えております。それぞれの地域には個性と特色があります。それらが織りなす暮らしが「千葉らしさ」につながります。

この「千葉らしさ」を県民の皆様と一緒に、花咲かせていきたいと思っています。

結びに、選考委員をはじめとする関係者や応募された方々、後援及び協賛団体の皆様の御協力に深く感謝申し上げます。

平成14年 3月

1

目次	千葉県建築文化賞について	… 1	選考経過と総評	… 2
	大多喜町立老川小学校	… 3	千葉市立海浜打瀬小学校	… 4
	身体障害者更生援護施設 ディアフレンズ美浜	… 5	高齢者生活支援ハウス ヴォーネン本埜	… 6
	エコビレッジ松戸	… 7	周郷建設新社屋	… 8
	熊木邸	… 9	応募（推薦）建築物一覧	… 10
	中崎邸	… 9	建築文化賞選考委員会	… 10

応募88点から8点入賞 (選考経過と総評)

千葉県建築文化賞選考委員会委員長 北原 理雄

第8回千葉県建築文化賞は6月の委員会で応募要領を定め、対象建築物を平成13年9月末まで2か月間、募集した。

これに対して、総数88点の応募をいただき、前回より25点の増加をみた。(部門別内訳は、下表のとおり。)

きびしい経済情勢にもかかわらず、関係者の熱意により、幅広く多様な作品が寄せられた。深く感謝したい。

第1次選考はすべての応募用紙を一堂に展示して、その記載と写真をもとに2回の投票を行ったうえで、各部門5点を選んだ。次いで11月後半の4日間をかけ、その15か所を現地訪問し、建築物の説明を伺いながら詳細に調査した。第2次選考は平成14年1月開催の委員会で、現地調査の報告を踏まえ再度投票を行い、討議を重ねながら優秀な建築物を選んだ。

その結果、建築文化賞6点(部門ごとに2点)、建築文化奨励賞2点を表彰候補作品として決定した。

(3部門の対象)	(選考の過程)	応募点数	(1次選考) 現地調査	(授賞作品選定)	
				建築文化賞	同 奨励賞
景観に配慮した建築物		55	5	2	1
高齢者・障害者等に配慮した建築物		17	5	2	0
環境に配慮した建築物		16	5	2	1
(合計)		88	15	6	2

景観に配慮した建築物

多くの応募作品に、建築物の質の向上と合わせて、敷地周辺の特性への対応や良好な街並み形成への配慮が認められた。

その中でも学校・保育園など、明日の世代を育む建築に質の高い作品が目立った。

「老川小学校」は自然豊かな山間部、「海浜打瀬小学校」は海岸埋立地のニュータウンと対照的な立地だが、どちらも周囲の景観と見事に調和し、地域に開放された学校のあり方をモデル的に示している点が高く評価され、建築文化賞となった。

奨励賞の「熊木邸」は間口の狭い変形敷地を使いながら、和と洋を調和させた端正なたたずまいが街並みの景観に貢献している点が評価された。

高齢者・障害者等に配慮した建築物

「ディアフレンズ美浜」は市街地において障害者がいきいき生活できる空間、住まいの集合体を、優れたデザインによって実現している点が印象的である。

「ヴォーネン本塾」は、生活支援ハウスの県内第1号として、居住者が明るく楽しい共同生活を送れるようにとの配慮が共感を呼んだ。

その結果、この2点が建築文化賞とされた。

なお、「浦安市運動公園屋内水泳プール」及び「安藤邸」は、使いやすさの配慮が認められたが、惜しくも選外となった。

奨励賞は該当なしとされたが、誰でもが使いやすい建築にしようとの意識が、次第に一般化してきているように感じられた。

環境に配慮した建築物

この部門には、本年度も環境への多様な配慮を示す作品が寄せられた。「エコビレッジ松戸」は、新開発の設備システム、長寿命の建築、地域生態系への配慮などによって質の高い環境共生型の集合住宅を実現している点が高く評価された。「周郷建設新社屋」は省エネルギー、省資源化とともに、多様な緑地によって道行く人々の快適性にも配慮した点が支持された。その結果、この2点が建築文化賞に選ばれた。

奨励賞の「中崎邸」は、太陽エネルギーの有効利用と自然素材の採用への思いが共感を得た。

数々の賞を受けている「セミテックワールド」は、デザインの質の高さが評価されたが、環境の部での授賞は見送りとなった。

2

選考の基準

- 千葉県内において、平成8年4月1日から平成13年3月31日までに完成(増築、改築、リフォームを含む)し、現在良好に管理され、また、使用されている建築物で、この表彰の趣旨に適合しているもの。
- 優れた建築物であり、次のいずれかに該当するもの。
 - ①地域の特性や周辺的环境に十分な配慮がなされ、建築物と外部空間が一体となって魅力ある景観を創出し、地域の景観形成に寄与しているもの。
 - ②安全性・快適性・利便性に優れ、高齢者や障害者等がいきいきと豊かな生活が送れるように十分な配慮がなされ、社会活動への参加が容易に出来るような環境整備がなされているもの。
 - ③エネルギーの省力化や資源の高度な有効利用を図ったり、地域生態環境と親和させるために、自然を取り入れた建築の工夫がなされるなど、人と環境に対して安全安心で健康快適な室内環境の性能について配慮がなされているもの。
- 建築基準法等の各法令に適合しており、近隣との紛争が生じていないもの。



建築文化賞

景観に配慮した建築物

自然・地域文化と共生する学び舎

おいかわ 大多喜町立老川小学校

建築主：大多喜町

設計：(株)榎本建築設計事務所

施工：山本建設株式会社

所在地：夷隅郡大多喜町小田代524-1



多目的ホールとクラスター棟

養老溪谷の豊かな自然に恵まれた地域に建設された大多喜町立老川小学校は、分校の統合を行っても現在の児童数が72名という小さな小学校であるが、公民館のような地域の拠点としても位置付けられた建物である。

老川小学校を訪れて、まず目に飛び込んでくるのは、ひとつひとつの教室の「家」のようなスケールだ。基本的な一つのクラスターは、二つの普通教室とワークルーム、畳コーナーとトイレからなり、一クラスあたりの人数の増減を考慮して少人数クラスでも不都合のないような木目細かなこの地域の状況への配慮が感じられる。小さなボリュームに分割された教室、図書室、多目的ホールなどの建築に取り囲まれ小さな集落のようにも見える中庭は、屋外劇場としてもデザインされており、積極的に児童の生活に関わるように計画されている。地元産の杉材を使用し、地域の施設としても開放的に計画された多目的ホールとともに、学校と地域の交流のスペースに広がりを持たせている。

全体に複雑な構成であるが、それが人間の行為と密接に結びついた豊かな空間として成立しており、その複雑な構成を破綻なくまとめあげているところに、設計者の熱意と力量を感じる。

この地域と密着した小学校のあり方はプログラムの点から多めに評価されるべきであるし、多様な構成の中に小



ふれあいコートの屋外劇場

教室の木組み

さな社会を内包した老川小学校は建築としてそのプログラムにさらなる可能性を与えている。少子化、高齢化、過疎化に悩む地域における公共施設のあり方に一石を投じた建築といえるのではないだろうか。(篠原聡子)





建築主：千葉市
 設計：(株)桑田建築設計事務所
 施工：新日本建設株式会社
 松栄建設株式会社 [共同企業体]

所在地：千葉市美浜区打瀬3丁目地内

街並みに調和したモダンな外観

かいひん うたせ

千葉市立海浜打瀬小学校



街のアイストップとなるガラスの三角柱

幕張新都心は未来型の複合機能都市といわれる。幕張メッセや高層のホテル・オフィスビルが林立するが、ここは1万人余が暮らす街(幕張ベイタウン)でもある。海浜打瀬小学校は、この地域の生徒増に対応するため打瀬小学校の兄弟校として建設され、平成13年春に開校した。両校とも地域に開かれ、子どもたちや住民にとって魅力的な生活学習空間として高い評価を得ている。

管理諸室や学級室はほぼ中央にあり、楕円形の中庭を囲んでいる。その三方を特別教室棟や屋内運動場棟が包み込んだ配置になっている。それらを広く明るい通路で連絡づけ、魅力的な回遊動線とし、ふれあい・にぎわいの場を形成している。

教室棟はオープンになっており複数学年での学習もできる柔軟性がある。一方では、多人数教育の画一化を打破するための仕掛けが随所に試みられ、各種の活動を促すように子どもたちを誘い込む。

1階隅の図書室は、床を一段下げて落ち着いた雰囲気を作り出し、その隣にはコンピューター室を配置した。こうして多様な情報媒体を総合的に活用できるメディアセンターとしての機能が高められた。

各室は屋外と連続させて緑をとり込み、木材を多用している。自然の採光通風によって快適さを生み出し、環境との共生にも十分配慮された。

「子どもたちを主役とした、さまざまなシーンがあふれ



上空から望む第5のファサード



さまざまなシーンがあふれる中庭

る学校」を目指して行政・地域・学校・設計者が一丸となって取り組んだ成果といえよう。

幕張新都心に相応しい先進的な教育環境として、地域住民の熱い期待が寄せられている。(明智克夫)



高齢者・障害者等に配慮した建築物

市街地でいきいき生活できる
身体障害者更生援護施設

ディアフレンズ^{みはま}美浜

建築主：社会福祉法人 春陽会
設計：(株)榎本建築設計事務所
施工：矢作建設工業株式会社東京支店

所在地：千葉市美浜区磯辺2-21-1



木質で仕上げた安らぎの広場

ディアフレンズ美浜は、稲毛海浜公園や住宅団地、学校などにほど近い街なかに平成13年4月に開設された福祉施設である。障害のある子供の将来を案じてその進路の開拓に向け様々な活動を続けている「千葉市肢体不自由児者父母の会」が設立母体となった。「親亡き後も安心して障害者の生活を託せる施設を」との願いから発想され、地域にしっかりと根つきそうな簡素だが凛とした気品を漂わせる魅力的な建築である。

ウッドデッキと緑の中庭を囲むように、1階には食堂やデイルームが配置され、2階には居室が配置されている。また、通りに面したところには地域で働きながら生活する障害者のための福祉ホームが配置されている。さらに、1000人規模の集会までできる大きな地域交流スペースも備えている。

建築デザインとしては、内外装ともに木の素材を巧みに使い、外に対しては柔らかな表情をみせつつも、毅然とした存在感を与え、内部には、ごく普通の生活をするのにふさわしい家庭的な雰囲気を醸し出している。

何か特別なことをしようという発想ではなく、障害があってもごく普通の存在として、ごく普通に生活できる環境をととのえようという強い意志のもとに生まれた、まさにやさしい空間である。



正面玄関アプローチ (撮影 澤田勝良)

明るいデイルーム



ここを拠点に地域の人々が集い、また、ここから多くの人々が地域に帰っていくことがごく自然に期待できる空間が創造されたことを高く評価したい。こうした空間が、地域にごくあたり前に存在する時代が到来したとするならば、喜ばしいかぎりである。 (園田眞理子)



建築主：社会福祉法人 六親会
 設計：森田建築設計事務所
 施工：株式会社 石川組

細やかな配慮を形・光で表現
 高齢者生活支援ハウス

所在地：印旛郡本埜村笠神1620

ヴォーネン^{もとの}本埜



ひさしの大きな正面玄関アプローチ

利根川と印旛沼の間に、白鳥の飛来する本埜村がある。
 「ブレーゲ本埜」は特別養護老人ホーム、短期入所生活介護事業などの居宅サービスの機能も備えた施設である。ここに独立して生活することに不安な高齢者の居住施設として、通所介護事業所と合わせ整備した小規模多機能施設、生活支援ハウスが県内で初めて併設された。

「ヴォーネン」とはドイツ語で家を意味するが、入居者が明るい雰囲気の中で楽しげに過ごせるような空間を意識して設計されたとのことである。

既存建物の北東側に扇を広げた形で配置を考え、敷地を有効に生かしている。デザイン的に工夫され入り口も並列ではないため、両棟が廊下で結ばれてはいるが、独立した建物のように見える。

玄関や窓周辺にはアクセント的な装飾が施され、陰影の効果も生かされた清楚な外観である。

1階は食堂、浴室等共用スペースとし、2階3階は緩やかな円弧状に20の個室が並んでいる。

食堂には共同作業ができる作業台と台所があり、浴室の壁は白鳥のアートレリーフで彩られている。楽しさを演出し、使いやすさへの配慮も現れている。

簡素な材料を用いながら、照明や器材の色・形には細かな心配りがあり、淡いクリームやグリーンの色調で統一さ



中央ホール・談話室

円弧状の廊下（夜景）



れた内装は採光上の工夫と相まって温かみと清潔感を感じさせてくれる。

限られた経費のなかで、居住者や設置者の要望にも良くこたえた施設として高く評価できる。（川上昌子）



建築主：財団法人 電力中央研究所
設計：大成建設株式会社設計本部
施工：大成建設株式会社千葉支店

環境共生をめざす高品位の集合住宅

エコビレッジ^{まつど}松戸

所在地：松戸市小金原1-19-1



全景 分棟化され円弧状に配置された家族棟

(撮影 (株) エスエス東京 横瀬博一)

電力の総合的な研究機関に勤務する職員のための集合住宅（家族用と単身者用の別棟）である。

ここでは構想段階から、環境共生住宅がめざすものを追求し、先駆的に意欲的な試みが進められた。それは住宅及びその地域の環境が、①エネルギー・資源・廃棄物などの面で十分な配慮がされること、②周辺の自然環境と親密に美しく調和すること、③住み手が主体的にかかわりながら健康で快適に生活できるように工夫されていること等である。

正方形に近い敷地に対し、緻密なデザイン・プロセスを経て設計が定まった。周辺との調和、既存樹木の保存、採光・換気の最適化、動線や共有空間等を考え、家族棟は5つに分割し、円弧状に配置された。

構造躯体は長寿命の建材を用いながら、間仕切り壁や水廻り位置等は必要に応じて変更ができる。

冷暖房・給湯は新開発の水蓄熱・多機能ヒートポンプシステムを導入した。深夜電力や蓄熱槽の活用により、省エネルギー・低コストはもとより、電力需要のピークを抑制する効果も期待されるとのこと。



コモンガーデンと単身者棟・家族棟

高気密・高断熱の建物や省資源型の設備など先進的な技術を巧みに応用したことで高い評価を得た。

近隣との調和については異論もあったが、緑化樹の生育や水辺のビオトープの熟成を見守りたい。

環境デザインを総合化する試みが、民間住宅での建築計画において実践されたことの意義は大きい。（岩村和夫）



建築主：周郷 紀男
 設計：(株)川口建築設計事務所
 施工：周郷建設株式会社

多彩な緑地を設けた事務所
 GREEN STEPS

すごう
周郷建設新社屋

所在地：八千代市大和田新田406



木の緑が映える全景（バイパス側から）

東葉高速鉄道の開通により急速な都市化が進み、国道のバイパスが横断することになった。

これを機に、周郷建設の本社屋が建て替えられた。

「豊かな自然と調和し街並みにやすらぎを与える建築」、
 「環境に配慮した建築」とすることを志向し、新しい技術や工法が広く採用されている。

地上6階建のビルは、1～2階が事務所、3階が茶室・屋上庭園、4～6階が二世帯の住宅という構成である。

建築資材は再生が容易にできることも考えて、コンクリート打ち放し等を選択されているとのこと。

低層部（事務所部分）はバイパスと平行にし、高層部（住宅部分）は北東に回転させ国道に沿わした。こうして周辺環境と調和を図り、日影の範囲も少なくしている。

透明ガラス面を枠のないDPG工法で組み上げたので、街に開かれた威圧感のない仕上げとなっている。

斜面緑地や中庭の植栽のほかロビー吹き抜けにも階段状に花壇が設けられて、緑の空間の一体化を図っている。ウコン色の塗り壁も緑化を際立たせ、穏やかで心安らぐ快適な事務所の環境が保たれている。

屋上庭園や開口部の材料、構造や仕組みにも様々な工夫



階段状の緑地花壇

を凝らし、入念な断熱処置が施されていた。

その上で、深夜電力を利用したエコアイスを採用し、パーソナル空調としたことで全体の負荷を低減させている。

換気も部屋の上下の温度差を利用することで、大幅な省エネルギーを実現している。

敷地の内外両面にわたって、環境に細やかな気配りが感じ取れる秀作である。 (田中修一)

建築文化奨励賞

景観に配慮した建築物

濃密な空間を感じさせる住宅

くま き てい 熊 木 邸

間口が狭く隣家に囲まれた変形の敷地をうまく生かした住宅である。外観はコンクリート打ち放しと杉板張りで構成された簡素で控えめな表情を見せている。

市道に開かれた形を保ちながら、訪れた人を奥に誘い込むアプローチがある。玄関に入り廊下を通り抜け部屋に向かう、そのすべてが濃密な空間を構成し、街なかの喧騒とは異なる世界に導かれる気がした。

新居は地震に強く、明るく暖かい家にしたいという条件に加えて、茶道をたしなむご夫婦のための小間と庭を組み込むことに工夫が凝らされている。

1階は茶室と客間、2階は居間と厨房・寝室等が配置されており、屋上デッキには野点ができる場所も設けられている。

市街地にありながら、茶道空間の持つ静寂さが見事に演出され、温もりや安らぎを感じることができる。

2階は「光と風」を取り込み、開放的な明るさがある。南側には開口部を大きく取り、屋上につらなる階段の吹き

建築主：熊木 貞夫

設計：(株)太田照己都市建築デザインファーム

施工：株式会社 岩本組

所在地：市川市菅野1-7-17



北側アプローチから



玄関から茶室へ (撮影 安川千秋)

抜けからの採光も効果的である。

居間兼食堂は広々としており、階下とは雰囲気は変えながらも気品のある美しさを醸し出している。

丁寧な設計や施工には好感がもたれたが、屋上に手すりが無いことが気になるとの声もあった。(五十嵐浩)

9

環境に配慮した建築物

太陽電池・熱活用と半地下室で省エネルギー

なか さき てい 中 崎 邸

千葉市郊外の緑に囲まれた分譲地内にある中崎邸は、年を重ねたご夫婦2人の新しい暮らしの舞台だ。

敷地165㎡、建築面積73㎡、半地下と1階からなる延床面積は106㎡である。コンパクトながら施主と設計者の弾んだ会話が想像できる心くばりの施された住宅である。

玄関を入ると吹き抜けの階段室があり、上下の空間の一体化を図っている。上階は天井が高く広々としたリビングダイニングルーム。その一画は4帖半の畳敷き。木材を主とした内装は障子や襖を配した和風づくり。南面ガラス戸越しには、広縁風のベランダが伸びる。

北側は納戸付きの寝室に続く洗面所と浴室。東側のキッチンへの動線にも無理がなく、使い勝手もよさそうだ。

階下は蔵書に囲まれたご主人の書斎。半地下構造は先端技術から生まれた工法を採用し、3方向に掘り広げられたライトコートからの採光・通風も充分で、保温・防音にも優れた快適空間になっている。

建物外観を個性的にしている入れ違いの片流れ勾配屋根には、太陽熱利用の温水器と発電用のソーラーパネルを設置し、広い屋根面を活用した。毎月の計測データもとって

建築主：中崎 英彦

設計：久保田章敬建築研究所

施工：株式会社 地下室

所在地：千葉市緑区大椎町1199-199



半地下室のある外観
(4寸勾配の片流れ屋根)



太陽光発電の活用
(撮影 ナカサ&パートナーズ)

省エネルギー対策も周到だ。

ライフスタイルの変化、有限の環境問題、住宅を巡る時代の課題に対し、確かな生活姿勢と先進技術導入の積み重ねこそ、今後の貴重なモデルとして生かされよう。

(野口瑠璃)

応募(推薦)建築物一覧(地域・市町村別) (70作品)【◎表彰の対象となったもの ●現地調査の対象となったもの】

(惜しくも選にもれた建築物にも、それぞれ優れた配慮や特長がありました。)
携わられた方々に敬意を表し、ますますの御活躍を期待しています。

[千葉市内]		[印旛地域]	
◎ 千葉市立海浜打瀬小学校	美浜区	成田市立西中学校	成田市
◎ 身体障害者更生援護施設 ディアフレンズ美浜	美浜区	囲護台のいえ	成田市
関東鍼灸専門学校	美浜区	ミレミアムセンター佐倉	佐倉市
ベイマーク スクエア	美浜区	NOT SO BIG HOUSE	佐倉市
◎ セミテックワールド テクノロジーセンター	花見川区	北総花の丘公園 花と緑の文化館	印西市
(仮) 南花園住宅	花見川区	印旛村立いには野小学校	印旛村
ワンズモール	稲毛区	◎ 高齢者生活支援ハウス ヴォーネン本埜	本埜村
とどろき郵便局	稲毛区		
弁天町鈴木ビル(スペースオ)	中央区		
浜野川ランドマークハウス	中央区		
藤原邸	中央区		
◎ 中崎邸	緑区		
みつわ台の家	若葉区		
[千葉地域]		[香取地域]	
秋津小の角の家	習志野市	ビルドホームテック社屋・モデルハウス	佐原市
香澄の家	習志野市	◎ 安藤邸	多古町
◎ 周郷建設新社屋(GREEN STEPS)	八千代市		
◎ 新木戸保育園	八千代市		
八千代 母の家	八千代市		
吉成邸	八千代市		
◎ 自然と共存する家	八千代市		
子供が楽しめる家	八千代市		
マリヤ保育園	八千代市		
H-House	八千代市		
地球にやさしいガーデンハウス	八千代市		
◎ 特別養護老人ホーム 高滝神明の里	市原市		
[東葛飾地域]		[海匠地域]	
La Laport 3(ららぽーと船橋ショッピングセンター)	船橋市	銚子市S様邸	銚子市
マイコート本中山	船橋市	海上町Y様邸	海上町
東京エアカーゴ・シティ・ターミナルK棟	市川市	上永井園地整備展望施設	飯岡町
玄橙舎	市川市	飯岡町保健福祉センター	飯岡町
◎ 熊木邸	市川市		
E-Village	浦安市		
◎ 浦安市運動公園屋内水泳プール	浦安市		
猫実第2市営住宅	浦安市		
◎ エコビレッジ松戸	松戸市		
柏市立柏中学校	柏市		
白樺文学館	我孫子市		
沼南町都市農業センター	沼南町		
		[山武地域]	
		城西国際大学キャンパス	東金市
		山武郡市医療福祉センター	東金市
		ヌーヴェルゴルフ倶楽部クラブハウス	大網白里町
		(仮) 季美の森住宅	大網白里町
		本須賀第二区公民館	成東町
		老人保健施設 日向の里	山武町
		郵船航空・成田ロジスティクスセンター	芝山町
		[長生地域]	
		茂原の家(WOOD BOX)	茂原市
		特別養護老人ホーム 長生苑	茂原市
		大場邸	一宮町
		浅野邸	一宮町
		老人保健施設 睦沢の里	睦沢町
		[夷隅地域]	
		◎ 大多喜町立老川小学校	大多喜町
		[安房地域]	
		鴨川シーワールド トロピカルアイランド	鴨川市
		館山駅橋上駅舎・自由通路等	館山市
		◎ 千倉町立ちくら保育園	千倉町
		[君津地域]	
		富来田中学校武道場	木更津市
		かずさ2号公園公園施設(公衆便所)	木更津市
		仲片町区自治会館	木更津市
		下洲の家	富津市

千葉県建築文化賞選考委員会

- 委員長 北原 理雄：千葉大学工学部教授
 副委員長 岩村 和夫：武蔵工業大学環境情報学部教授
 委員 明智 克夫：千葉県建築設計監理協会前会長
 委員 五十嵐 浩：(社)千葉県建築士事務所協会前会長
 委員 川上 昌子：淑徳大学社会学部教授
 委員 神林 保夫：(福)千葉県身体障害者福祉協会常務理事
 委員 篠原 聡子：日本女子大学家政学部助教授
 委員 周郷 紀男：(社)千葉県建築士会名誉会長

- 委員 園田真理子：明治大学理工学部助教授
 委員 田中 修一：(社)日本建築家協会・千葉代表
 委員 野口 瑠璃：環境デザイナー
 委員 前田 浩一：(福)千葉県社会福祉協議会常務理事
 委員 山本 博：(社)千葉県建設業協会建築担当委員
 委員 松戸 和雄：千葉県健康福祉部長
 委員 東城 浩光：千葉県都市部長

【敬称略・委員は五十音順】

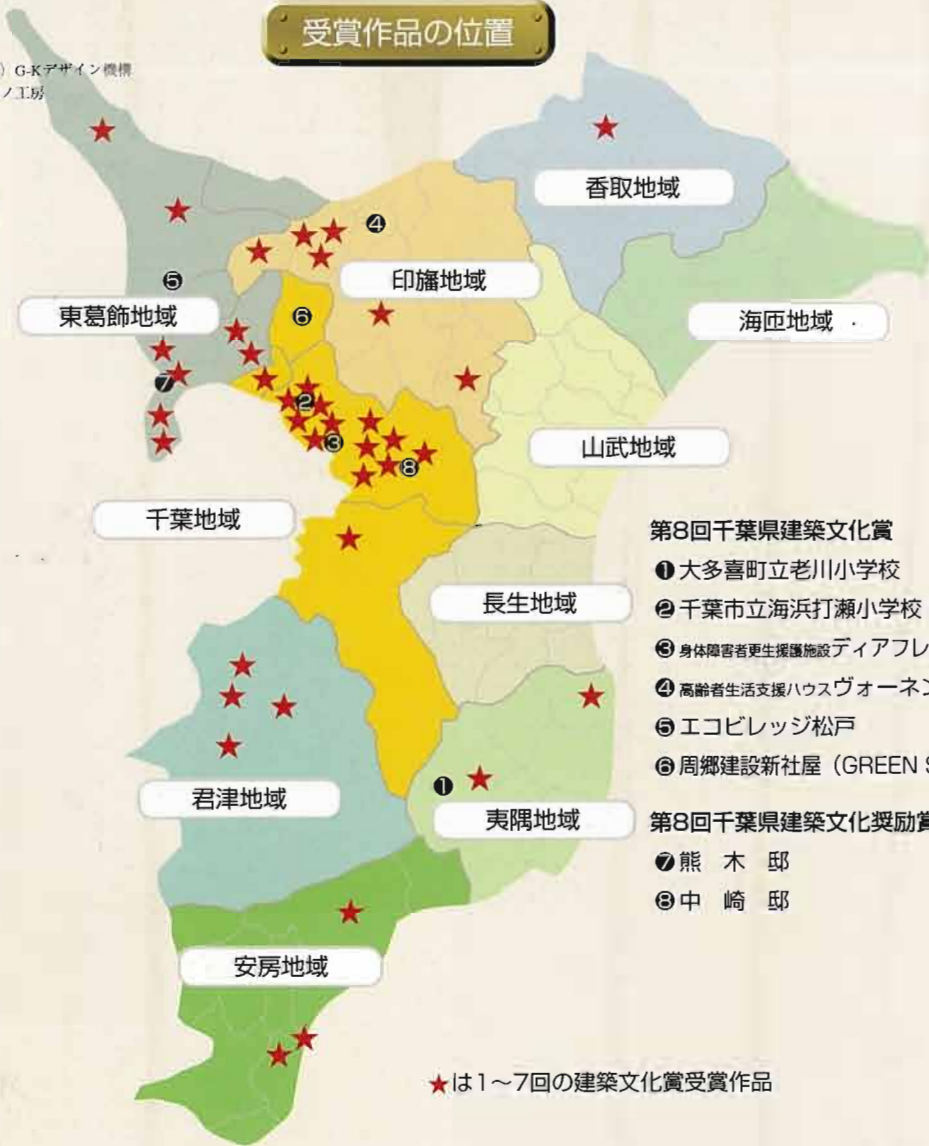


表紙：記念銘板
デザイン：(株)G-Kデザイン機構
制作：紳心ノ工房

受賞作品の位置

建築文化賞受賞作品 所在市町村別の数

千葉市	14
印西市	3
木更津市	3
船橋市	2
市川市	2
浦安市	2
大多喜町	2
千倉町	2
習志野市	1
八千代市	1
市原市	1
松戸市	1
柏市	1
野田市	1
佐倉市	1
八街市	1
白井市	1
本埜村	1
佐原市	1
岬町	1
鴨川市	1
君津市	1
計	44



- 第8回千葉県建築文化賞
- ① 大多喜町立老川小学校
 - ② 千葉市立海浜打瀬小学校
 - ③ 身体障害者更生保護施設ディアフレンズ美浜
 - ④ 高齢者生活支援ハウスヴォーネン本埜
 - ⑤ エコビレッジ松戸
 - ⑥ 周郷建設新社屋 (GREEN STEPS)
- 第8回千葉県建築文化奨励賞
- ⑦ 熊木邸
 - ⑧ 中崎邸

★は1～7回の建築文化賞受賞作品

千葉県建築文化賞の実績 (応募点数・受賞作品数) 一覧

第 回	年	応募総数	建 築 文 化 賞				建築文化 奨励賞
			景観に配慮	高齢者・障害者等に配慮	環境に配慮	計	
1	1994	192	3	3	-	6	-
2	1995	73	3	3	-	6	-
3	1996	83	3	2	-	5	4
4	1997	87	4	1	-	5	5
5	1998	106	2	0	2	4	5
6	1999	101	2	2	2	6	3
7	2000	63	3	1	2	6	4
8	2001	88	2	2	2	6	2
1～8	計	793	22	14	8	44	23

※1) 「環境に配慮した建築物の部」は第5回に創設した。 ※2) 「建築文化奨励賞」は第3回に創設した。

千葉県建築文化賞は、多くの方々の協力にささえられ、回を重ねてまいりました。その間、県下の広い地域にわたり、44の建築文化賞が受賞されそれぞれの地域に根づいています。

千葉県建築文化賞はこれからも続けてまいります。

第9回の作品募集は、平成14年夏に行う予定です。皆様のご応募をお待ちしております。

終わりに、関係いただきました皆様に感謝し、改めてお礼申し上げます。

お問い合わせ先

千葉県都市部建築指導課
〒260-8667 千葉市中央区市場町1-1
TEL.043(223)3186 FAX.043(225)0913

社団法人 千葉県建築士会
〒260-0854 千葉市中央区長洲2-12-25
TEL.043(202)2100 FAX.043(202)2101